

令和3年度環境保全報告書

1. 地球温暖化対策に係る報告

・緊急事態宣言による休業や営業時間短縮の影響により、2020年度と比較して2021年度の各環境側面値はマイナスとなりました。特に11月から導入した再生可能エネルギー調達拡大により、CO2排出量のマイナスに絶大な効果がありました。2022年度は更なる効果を見込んでいます。

・削減型生ごみ処理機を2019年に更新し、更なる分別指導及び投入量の増量に取り組んだ結果、リサイクル量増量、最終処分量減量がリサイクル率アップに繋がりました。

2. 電気・ガス等の使用量、温室効果ガス排出量の推移

下段：対前年

環境側面	2016実績	2017実績	2018実績	2019実績	2020実績	2021実績	2022目標
電力 (Kwh)		▲2.8%	▲1.6%	▲1.3%	▲10.0%	▲5.8%	2.9%
ガス (m3)		▲2.8%	▲0.8%	0.075	▲16.3%	▲12.9%	8.4%
CO2排出量 (トン)		▲3.2%	▲14.3%	▲17.0%	▲14.0%	▲21.1%	▲20.1%
廃棄物リサイクル量 (kg)		▲1.0%	▲1.7%	14.3%	▲24.9%	8.1%	8.6%
廃棄物処分量 (kg)		▲2.5%	▲1.8%	▲9.3%	▲28.3%	2.2%	17.5%
廃棄物発生量 (Kg)		▲1.9%	▲1.8%	1.3%	▲26.6%	5.3%	12.8%
食品リサイクル率		▲0.6%	▲0.3%	22.5%	0.9%	11.1%	2.2%
食品廃棄物リサイクル量 (Kg)		▲6.5%	▲3.6%	39.50%	▲35.7%	19.8%	14.5%
食品廃棄物処分量 (Kg)		▲3.7%	▲2.1%	▲45.5%	▲38.0%	▲25.3%	0.9%
食品廃棄物発生量 (Kg)		▲4.6%	▲2.6%	▲18.9%	▲36.7%	0.3%	10.1%

3. 公害防止対策、地球温暖化対策に係る報告

No.	分野	目標項目	目標達成状況	目標達成のために講じた措置・対策	
1	大気汚染防止対策	ばい煙の排出規制の遵守	ばい煙測定結果 窒素酸化物 (Nox) 濃度適正 ○排出基準値150>測定値22	◆排ガス処理施設の適正な維持管理に努めるとともに、「排出ガス中のばい煙濃度等測定計画」により、目標値の遵守状況を確認した。	-
		ばい煙発生施設の維持管理 (吸収式冷温水機)	業者による定期点検実施 冷房オン・冷房オフ時		
2	フロン排出抑制対策	フロン機器の点検及び漏洩による適正対応	フロン機器の簡易点検及び定期点検実施 →記録有り 整備・修理の際のフロン類 充填・回収証明書受理済み	◆点検記録に沿った適正処置を行い証明書等受領	-
3	自動車対策	営業車両のEV車への切り替え (全車両45台)	出張所を除く35台を2024年度までに切り替え	◆充電スポット整備 ◆予算化措置	-
		エコドライブの推進		◆テレマティクスのデータ (速度超過や、急加速・急減速、燃費など) の運行状況をもとに燃費の向上及びCO2排出量の少ないエコドライブや安全運転の実施に役立てる	
4	LED化推進	既存照明を含む全照明器具のLED化 使用電力及びCO2排出削減	客用施設は約80%LED化済み。従業員施設を含み2025年度までに完了	◆設備の更新や改装時にはLED照明だけではなくエネルギー消費効率の高い機器を順次導入	-
5	冷暖房の適正化	クールビズ夏季：28℃	実施率100%	◆クールビズ、ウォームビズ徹底	-
		ウォームビズ冬季：20℃			
6	産業廃棄物対策	廃棄物の処理及び清掃に関する法を遵守し適正処理を行なう	産廃運搬処理業者との委託契約締結 「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」提出	神戸市許可業者と契約締結 環境局への報告書提出 (6月末)	-
			マニフェスト発行とE票受理、内容確認	マニフェストのE票受理、保管、最終処分状況確認	
			効率的、効果的なマニフェストの運用	2022年2月より電子マニフェスト導入により、さらなるマニフェスト管理の徹底。	

4. 公害防止対策、地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る報告

No.	分野	項目	細目	目標	実施状況
1	節水の徹底			従食への節水蛇口先行導入の検証	対前年2.3%増
2	廃棄物の適正処理・減量	空缶、空瓶、紙等の分別回収 コピー用紙の使用削減 廃棄物発生量の削減	紙類の専用収集ボックスの設置	焼却書類第2、4金曜日回収→溶解処理	実施済
			両面コピー	徹底	実施済
			ミスコピー紙	再利用	実施済
			ペーパーレス化の推進	徹底	実施済
			生ごみ処理機（消滅型）導入	リサイクル率60%以上確保	リサイクル率67.8%
			割り箸使用の抑制	感染症拡大予防策として使い捨ての割り箸を利用している	同左
	感染収束状況をにらみながら繰り返し使用が可能な消毒済み箸の再利用やマイ箸の利用呼び掛けを実施予定				
	納入業者へ梱包削減依頼	百貨店統一ハンガー折りたたみコンテナ等を活用	実施済		
3	再生製品等の使用	再生紙の使用促進	OA紙、トイレトーパー等の再生紙利用	100%	実施済
4	特定フロン等使用量の削減	特定フロン等使用機器廃棄時の適正処理	委託確認書兼引取証明書兼確認証明書（E票）受理 マニフェスト控え受理 破壊証明書受理	各書類受理済み	発生都度
5	環境に配慮した施設整備	緑地の整備	みどりの広場天然芝植込み		
			畑約50m ² 周辺プランター約60基植栽管理	畑野菜づくり 年4回の植栽植替え	未実施 実施済み
6	従業員教育	サステナビリティ教育	環境マネジメントシステム運用を活用して従業員教育を実施する	グループウェアと携帯用ポケットマニュアルを活用した教育の実施	実施済
		社内報での啓発	グループウェアを活用した啓発を実施	グループウェア内に特設サイトを開設すると同時に社内SNSで情報共有を実施する	実施済
7	地域社会への参画	旧居留地連絡協議会の各委員会参画	「クリーン作戦」	年4回	中止 実施済み
			「放置自転車バイク警告タグ貼り」	年1回	
			「ノーマイカーデー運動」	年1回	
8	環境管理システムの充実	ISO 14001の取得			2003年度取得済み
		ISO 14001認証の維持	内部監査・取組み確認会議の実施	側面調査シート及び事前ヒアリングシート作成	取組み確認会議6/15実施
		外部定期審査・更新審査の実施		1/14外部定期審査受講	
9	プラスチックに係る資源循環の促進	排出されるプラスチックを回収リサイクル	一般ハンガー・発泡スチロール回収リサイクル	同左	リサイクルとしてマニフェスト発行及び最終処分E票回収済 産業廃棄物管理票交付等状況報告書提出済み

5. J. フロントリテイリングの社外からの評価（ご参考）

株式会社大丸松坂屋百貨店は、2010年に設立された、J. フロントリテイリンググループの中核事業会社です。

1) CDP2021気候変動の調査において「Aリスト」に選定

J. フロントリテイリングは、国際的な環境非営利団体CDPによる、2021年度の気候変動に関する調査において、最高評価であるAリストに2年連続で選定され、気候変動への取り組みや情報開示に関する先進企業として認定されました。気候変動への対応を、最重要課題と位置づけており、2021年マテリアリティを「低炭素社会への貢献」から「脱炭素社会の実現」へ改めました。これまでの取り組みを、より加速させカーボンニュートラルの実現を目指します。



2) 「第16回東洋経済CSR企業ランキング」CSR3部門合計第3位、環境部門第1位

J. フロントリテイリングは、2022年2月「株式会社東洋経済新報社」が発表した「第16回CSR企業ランキング」において、「人材活用」「環境」「社会性+企業統治」の3部門の中で、環境部門では2年連続100点（満点）で第1位の評価を獲得。KPIである「2030年までにScope1・2温室効果ガス排出量60%削減（2017年度比）の取り組み」また「ジェンダー平等の促進（女性管理職比率増、男性育児休暇取得等）の取り組み」等が評価された。

3) 日経「SDGs経営」調査2021において星4.5に認定

J. フロントリテイリングは、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」への取り組みを格付けする日経「SDGs経営」調査2021にて、星4.5を獲得しました。日経「SDGs経営」調査は、「SDGs戦略・経済価値」「社会価値」「環境価値」「ガバナンス」の計4つの分野に関する質問で構成され、企業向けアンケート調査や公開データなどから17の評価指標を作成し、企業を評価するものです。

以上